

### 特集 2022

## 研修実施計画 研修ガイド

### 2021 研修レビュー

- 令和3年度の研修を振り返り  
ー 令和4年度の研修に向けてー
- オンラインで実施した研修を振り返って

### 施設紹介

- 林業機械化センター展示棟(親機館)紹介

### 研修紹介

- ・ 木材産業・木材利用(基礎知識・  
木質バイオマス利用)
- ・ 情報処理(森林情報の取得・利活用)
- ・ 市町村林務担当者(実務)
- ・ 民国連携推進
- ・ 木材産業・木材利用(基礎・バイオマス)
- ・ 木材産業・木材利用(実践・輸出戦略)
- ・ 山村振興・地方創生推進

### 令和3年度集合研修風景



現地実習 (森林整備事業研修)



現地実習 (情報処理(森林情報の取得・利活用)研修)



第2教室にての講義 (机は各1名使用)



集合研修時のグループワーク



チェーンソー伐木造材技術 (初級) 研修



高性能林業機械 (基礎) 研修

## 令和3年度の研修を振り返り ―令和4年度の研修に向けて―

首席教務指導官 栗山 喬行

(はじめに)

令和4年度を迎え、令和3年度の研修を振り返り感想を述べると、「令和3年度も令和2年度に引き続き、コロナに振り回された年になってしまった」の一言に集約できるような気がします。そして残念ながら、令和4年度の研修もwithコロナで進めて行かなければならないだろうと考えています。

(令和3年度研修の実施状況)

令和3年度に森林技術総合研修所で計画した研修は、群馬県沼田市にある林業機械化センターで実施する研修16コースを含めて、合計70コースを計画しました(通信研修2コースを除く)。

コロナ禍における令和3年度の研修を実施する方針として、政府の緊急事態宣言が東京都や群馬県に発令されている場合は、当該地を拠点とした集合方式の研修は実施しない(できない)との考えを基本としていました。その場合、オンライン(WEB配信方式)での研修を模索することになりますが、当研修所で行っている研修の多くは現地実習が研修の中心となっていることから、講義の部分のみの配信では研修効果がほとんど得られないと考えられた研修は、やむなく中止にすることとしました。

その結果、70コースのうち、オンラインで実施した研修が25コース、中止とした研修が20コース、集合研修で実施した研修が25コースとなりました。

25コースを集合研修で実施しましたが、コロナ対策に万全を期するために受け入れ人数を制限したり、参加申し込みがあったもののコロナの感染者数が地方より多い東京に行くことへの不安から参加申し込みを辞退する、といったケースが続出し、少人数での開催となった研修が相次ぐ結果となりました。

(集合研修実施の是非を判断する時期について)

7月に集合研修で実施し、少人数の参加となった森林計画(森林調査・計画策定)研修では、「人数が少ないこともあり、講師から手厚い指導を受けることができて良かった」といった好意的な意見がアンケートに寄せられていたものの、研修を中止するか、オンライン方式に変更するかといった判断をぎりぎりまで延ばしてしまったことから、研修参加を辞退した方々へご迷惑をお掛けしたと感じております。

令和4年度の研修では、このような反省を踏まえ、当初計画からオンライン方式で実施する研修を明らかにするとともに、コロナの感染者数が急増するなど、年度途中で中止やオンライン方式にしなければならない事態が生じそうになった場合は、早め早めに対応を判断するようにしていきたいと考えております。

(オンライン研修で寄せられた声)

オンラインで実施した研修のアンケート結果を見ると、「コロナ禍なので仕方ないが、やはり集合研修で実施して欲

しかった」「集合研修であれば夜まで意見交換ができるが、それができなくて残念」「早く現地視察付きの研修の再開を願う」といった集合研修の復活を求める意見がどの研修でも見られた一方で、「オンライン研修だから参加することができて良かった」「旅費がないため、オンライン研修で助かった」「コロナが収まってオンライン研修を継続して欲しい」など、オンライン研修を肯定的に捉える意見も出されていました。

(令和4年度オンライン研修の計画について)

上記のようなオンライン研修継続を望む声があったことや令和4年度もコロナ対応を継続しなければならない見込みであることを踏まえ、令和4年度の研修では、現地実習を伴わない講義中心の研修のオンライン化を継続することとしております。

また、研修参加者が多いため、年に2回計画している「保安林及び林地開発許可研修」と「森林経営管理制度の実務研修」では、1回目をオンライン研修、2回目を集合研修とし、参加者が希望する方式を選べるように工夫しています。

(令和4年度の研修に向けて)

令和4年1月からコロナ対策として実施されていた「まん延防止等重点措置」は、3月21日をもって全ての都道府県で終了することとなりました。

今後は、基本的な感染防止対策を継続しながら様々な活動を再開していくこととなりますが、日本国内の新型コロナウイルスの感染者数を見ると、3月27日現在で約640万人、1日当たり4万人強の感染が確認されるなど、引き続き、警戒を続ける必要がある状況が続いています。

そうした中、令和2年度から3年度にかけての2年間、森林技術総合研修所では、職員及び研修に参加した研修生から一人もコロナ感染者を出すことなく、研修を実施することができました。これもひとえに研修所の職員及び研修に参加された皆様全員が、常日頃から感染対策に気を付けながら毎日の業務・生活をされてきたことによるものと思います。

改めまして、当研修所の研修に関わられた全ての皆様に御礼申し上げます。

令和4年度の研修におきましても、研修に参加される方々の安全を確保し、参加した人が笑顔で研修を終えられるよう、研修所職員一同最大限努力したいと考えております。

皆様の令和4年度研修への参加を心からお待ちしております。





# 研修ガイド2022

## 2022年度 研修計画の特長

1コースを新設し、本所59コース&林業機械化センター18コースの77コースを計画しました。

NEW

### スマート林業普及教職員等育成

林業の成長産業化に向けた取組を着実に推進するために、地理空間情報やICT等の先端技術を駆使し、生産性や安全性の飛躍的な向上、需要に応じた高度な木材生産等を可能とする「スマート林業」を推進するため、実用化や実装化に至ったICT等を活用した先進的技術に関する知識を習得させ、次代の担い手となる高校生や大学生に教育等が行える教職員等を育成します。

i

### オンライン研修の拡充

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、集合研修が実施できず、急遽、研修が中止、延期、オンライン研修への変更を余儀なくされ、研修生の皆様にはご迷惑をかけることが多かったところです。

そこで、令和4年度は当初計画より、オンライン研修を10コースに増やし、実習を伴う研修でも座学(講義)の部分はオンライン研修とするなどの工夫をしました。

★座学(講義)部分をオンライン研修とした研修

- ・林道技術者育成
- ・高性能林業機械(安全指導・前期)
- ・情報処理(森林情報の取得・利活用)

### 林道施設メンテナンス

昨年度からの新規研修でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となりました。令和4年度は集合研修で現地研修を実施予定です。

林道施設の点検・診断を担当する技術者の技術力向上を図るため、現地実習等を通じた損傷程度の評価、対策区分の判定、健全性の評価等の知識及び技術を習得させ、施設点検の実務の指導ができる技術者を育成します。

### 森林作業システム

昨年度からの新規研修でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン研修となりました。令和4年度は集合研修で現地研修を実施予定です。

本格的な利用期を迎えている森林資源の循環利用の促進による林業の成長産業化の実現を図るため、効率的な線形で作設された路網を活用した低コストで高効率な作業システムに関する知識及び技術を取得させ、安全性と生産性を向上する森林作業システムを実践・指導できる者を育成します。

## 森林技術総合研修所の6つの特色

1

### 時代のニーズに応える研修

森林技術総合研修所は、森林・林業・木材産業に関する唯一の国の研修機関です。2020年に現在地に移転して50周年、名称が「森林技術総合研修所」となって25周年を迎えました。今後とも時代のニーズを見据えながらより質の高い研修を提供し、高度な技術を駆使して諸課題の解決に当たる人材を育成します。

2

### 質の高い講師

第一線で活躍する大学・企業等の人材を、講師として全国から招聘しています。

先導的な研究を行う森林総合研究所の研究者や、各施策担当の林野庁職員が講師を務めることで、最新情勢を踏まえた講義を実現しています。

3

### 基礎習得・継続研鑽をサポート

業務経験や習熟度を目安に【基礎～実務・実践レベル】の研修コースを設置することで、若手をはじめ、継続研鑽に努める中堅・ベテラン職員からも満足度等で高い評価を得ています。

森林総合監理士への継続教育支援を推進するため、森林総合監理士フォローアップ研修を実施しています。

4

### 市町村林務行政への技術的支援

地域に最も密着した行政機関である市町村職員の育成に力を入れています。

★市町村職員を対象とした研修

- ♣市町村林務担当者(基礎)
- ♣市町村林務担当者(実務)
- ♣市町村林務担当者(地域林政アドバイザー)
- ♣森林経営管理制度の実務1・2

5

### 集合研修

集合研修だからこそできる「現地実習・演習・グループワーク」「講師との対話」「研修生同士のコミュニケーション」をデザインし、研修の効果を高めています。

さまざまな地域・年齢の研修生同士が宿舍生活を通じて、人的ネットワークを構築しています。



6

### 宿泊施設・食堂を完備

集中して研修に取り組み、研修生同士の交流が図られるよう、宿泊室・食堂・談話室などを併設しています。

また、館内の換気の徹底、宿泊室は相部屋から個室に変更、食堂の机にはパーテーションを設置等、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています。





# 令和4年度 研修実施計画



番号	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期	備考
1	森林計画(基礎)	森林計画制度の体系 森林計画作成(ゾーニング)演習	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下)等	35	6/27 ~ 7/1	
2	森林計画 (森林調査・計画策定)	最新の森林調査の技術 森林計画量算定等の実務	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2年以上、森林計画(基礎)研修修了者)等	25	9/26 ~ 9/30	
3	森林立地・施業技術	土壌の調査手法 立地環境と造林、森林管理の関係	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2年以上)、森林総合監理士等	25	10/17 ~ 10/21	
4	生物多様性保全	生物多様性をめぐる動き 森林生態系と生物多様性 生物の多様性を豊かにする森林管理	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	21	11/7 ~ 11/11	
5	山村振興・地方創生推進	山村と都市や企業等の連携 森林環境教育等の現状・課題と推進方策 地域資源を活用した地域づくり、企画立案実習	地方公共団体、森林管理局・署等	25	11/15 ~ 11/18	
6	特用林産	特用林産物に関する知識、生産技術	地方公共団体等	20	11/14 ~ 11/18	
7	森林整備事業	森林整備事業の概要 リモートセンシング技術の活用等の新たな取組 先進的な造林事業体の経営と取組、継続的に利用できる路網整備	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	35	12/13 ~ 12/16	
8	林道技術者育成(講義)	林道の設計に関する知識・技術の概要 施設災害復旧に関する知識・技術や事業評価制度の概要	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下、通信研修(治山・林道)修了者)等	60	6/14 ~ 6/17	オンラインで実施予定
9	林道技術者育成(実習) 1	林道の計画・調査・測量・設計に係る基本的な現場実務(実習・演習)	令和4年度林道技術者育成(講義)研修修了予定(見込み)者及び令和3年度林道技術者育成2研修修了者	28	6/20 ~ 6/24	
10	林道技術者育成(実習) 2	林道の計画・調査・測量・設計に係る基本的な現場実務(実習・演習)	令和4年度林道技術者育成(講義)研修修了予定(見込み)者及び令和3年度林道技術者育成2研修修了者	28	7/4 ~ 7/8	
11	林道技術者育成(実習) 3	林道の計画・調査・測量・設計に係る基本的な現場実務(実習・演習)	令和4年度林道技術者育成(講義)研修修了予定(見込み)者及び令和3年度林道技術者育成2研修修了者	28	8/22 ~ 8/26	
12	林道路網計画 1	林道路網の計画 林道路網計画作成の技術的課題 路網計画に関する現地検討	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベルを除く)、森林総合監理士等	25	9/12 ~ 9/16	
13	林道路網計画 2	林道路網の計画 林道路網計画作成の技術的課題 路網計画に関する現地検討	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベルを除く)、森林総合監理士等	25	10/3 ~ 10/7	
14	林道施設メンテナンス	林道施設点検に関する知識・技術の概要 林道施設点検の現場実務	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以上の者)等	27	7/26 ~ 7/29	
15	森林作業道 作設指導者・監督者	森林作業道の作設方法及び施工管理 路体構造調査、作設路線の評価	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	27	9/26 ~ 9/30	
16	治山(基礎) 1	治山事業の概要、治山事業の実務 調査・計画・設計、渓流測量、工法、点検、診断等(総合演習)	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下、通信研修(治山・林道)修了者)等	30	5/31 ~ 6/10	
17	治山(基礎) 2	治山事業の概要、治山事業の実務 調査・計画・設計、渓流測量、工法、点検、診断等(総合演習)	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以下、通信研修(治山・林道)修了者)等	30	7/26 ~ 8/5	
18	治山(設計) 1	治山事業の概要、災害復旧 治山調査・測量・設計の実践	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2~5年以下で治山(基礎)研修修了者)等	27	8/29 ~ 9/9	
19	治山(設計) 2	治山事業の概要、災害復旧 治山調査・測量・設計の実践	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね2~5年以下で治山(基礎)研修修了者)等	27	10/17 ~ 10/28	
20	治山(地すべり)	地すべり防止事業を取り巻く新たな動き、先進的知識・技術 地すべり防止技術向上の専門的技術、調査、計画、設計等の実務	地方公共団体、森林管理局・署(担当経験が概ね3年以上)等	30	11/7 ~ 11/11	
21	保安林及び林地開発許可 1	保安林制度、林地開発許可制度について 保安林指定・解除及び指定施業要件変更の実務	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	84	5/24 ~ 5/27	オンラインで実施予定
22	保安林及び林地開発許可 2	保安林制度、林地開発許可制度について 保安林指定・解除及び指定施業要件変更の実務	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	24	7/5 ~ 7/8	
23	森林保護管理(病虫害)	森林保護行政の現状と課題 森林病虫害の現状と防除対策	地方公共団体、森林管理局・署等	32	6/14 ~ 6/17	
24	森林保護管理(獣害)	野生鳥獣管理を巡る現状と課題、保護管理と森林施業 シカの痕跡と被害、効果的なわな設置・捕獲実習等	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	30	10/4 ~ 10/7	
25	森林総合監理士育成(前期)	林業ICT化の意義と手法、路網整備、作業システム、コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体、森林管理局・署、林業事業者等	90	5/31 ~ 6/3	オンラインで実施予定

番号	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期	備考
26	森林総合監理士育成(後期) 1	森林施業、路網、伐採計画の作成演習 コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体、森林管理局・署、林業事業体職員等※前期研修修了者	25	8/2 ~ 8/5	
27	森林総合監理士育成(後期) 2	森林施業、路網、伐採計画の作成演習 コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体、森林管理局・署、林業事業体職員等※前期研修修了者	20	8/23 ~ 8/26	
28	森林総合監理士育成(後期) 3	森林施業、路網、伐採計画の作成演習 コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体、森林管理局・署、林業事業体職員等※前期研修修了者	30	10/11 ~ 10/14	
29	林業金融実務・税制	林業金融制度の意義と実際 林業税制の意義と実際	地方公共団体	24	6/21 ~ 6/24	
30	森林組合指導担当基礎	森林組合の現状と課題、コンプライアンスの確立 森林組合の経営状況の見方	都道府県の森林組合指導担当	35	6/7 ~ 6/9	オンラインで実施予定
31	森林作業システム	森林作業システムの基本的考え方や効率化手法 森林作業システム計画に資するICTやソフトウェア	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	20	8/30 ~ 9/2	
32	チェーンソー伐木造材技術(初級)	伐木等の方法(伐倒練習機による伐木実習等) 健康障害を防止するための目立て、チェーンソーのメンテナンス 伐木等の業務に係る安全衛生特別教育	地方公共団体等	15	6/6 ~ 6/10	林業機械化センター
33	チェーンソー伐木造材技術(上級)	伐木等作業の特徴と作業の安全(伐倒練習機による伐木実習等) チェーンソーを用いて行う伐木等の業務従事者安全衛生教育	地方公共団体、森林管理局・署等(安衛則36条の8特別教育修了者)	12	7/4 ~ 7/8	林業機械化センター
34	チェーンソー伐木造材技術(安全指導)	伐木等作業の法整備の背景・経緯 伐木等作業の特徴と作業の安全(伐木練習機による伐木実習等) 伐木等作業における安全指導の方法等	地方公共団体、森林管理局・署等(安衛則36条の8特別教育修了者)	12	6/13 ~ 6/17	林業機械化センター
35	チェーンソー・刈払機 1	伐木等の方法(伐倒練習機による伐木実習等)、目立て チェーンソー・刈払機の構造とメンテナンス 伐木等業務の安全衛生特別教育、刈払機取扱作業者の安全衛生教育	森林管理局・署等	12	6/20 ~ 6/24	林業機械化センター
36	チェーンソー・刈払機 2	伐木等の方法(伐倒練習機による伐木実習等)、目立て チェーンソー・刈払機の構造とメンテナンス 伐木等業務の安全衛生特別教育、刈払機取扱作業者の安全衛生教育	森林管理局・署等	12	11/14 ~ 11/18	林業機械化センター
37	高性能林業機械(女性担当者)	高性能林業機械の特性、安全な作業方法、普及指導のポイント 高性能林業機械の現状と効率的な作業システム事例	地方公共団体、森林管理局・署等のうち女性職員	12	9/12 ~ 9/16	林業機械化センター
38	高性能林業機械(基礎) 1	高性能林業機械の特性、安全な作業方法 高性能林業機械の普及指導のポイント 高性能林業機械の現状と効率的な作業システム事例	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	12	8/1 ~ 8/5	林業機械化センター
39	高性能林業機械(基礎) 2	高性能林業機械の特性、安全な作業方法 高性能林業機械の普及指導のポイント 高性能林業機械の現状と効率的な作業システム事例	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	12	8/29 ~ 9/2	林業機械化センター
40	高性能林業機械(林業大学校等指導者)	高性能林業機械の安全かつ効率的な作業方法 高性能林業機械作業の指導ポイント、林業大学校等の指導事例等	林業大学校・高等学校指導者等(車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育修了者)	12	8/22 ~ 8/26	林業機械化センター
41	高性能林業機械(安全指導・前期)(講義)	車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育に係る学科教育	地方公共団体(「車両系木材伐出機械等運転業務特別教育」の講師等になり得る者)、森林管理局・署等(「令和4年度 高性能林業機械(安全指導・後期)(実習)研修」の受講予定者に限る。)	20	6/29 ~ 7/1	林業機械化センター オンラインで実施予定
42	高性能林業機械(安全指導・後期)(実習) 1	車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育に係る実技教育 高性能林業機械作業のリスクアセスメント、ワイヤロープの取扱い	地方公共団体(「車両系木材伐出機械等運転業務特別教育」の講師等になり得る者)、森林管理局・署等(「令和4年度 高性能林業機械(安全指導・前期)(講義)研修」の修了者に限る。)	10	7/25 ~ 7/29	林業機械化センター
43	高性能林業機械(安全指導・後期)(実習) 2	車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育に係る実技教育 高性能林業機械作業のリスクアセスメント、ワイヤロープの取扱い	地方公共団体(「車両系木材伐出機械等運転業務特別教育」の講師等になり得る者)、森林管理局・署等(「令和4年度 高性能林業機械(安全指導・前期)(講義)研修」の修了者に限る。)	10	9/26 ~ 9/30	林業機械化センター
44	高性能林業機械(生産性)	生産性の把握に関する基礎知識、生産性の把握、算出、評価 生産性の評価とコスト	地方公共団体、森林管理局・署等	12	9/5 ~ 9/9	林業機械化センター
45	森林作業道(基礎技術)	車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習 森林作業道作設に必要な知識・技術、試験研究成果	地方公共団体等(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習」修了者を除く。)	10	10/11 ~ 10/21	林業機械化センター
46	森林作業道(調査設計)	森林作業道の整備に必要な知識及び技術 森林作業道の調査設計に必要なポイント	地方公共団体、森林管理局・署等	15	7/11 ~ 7/15	林業機械化センター
47	森林作業道(作設指導)	森林作業道作設に必要な知識及び技術 森林作業道作設指導に必要なポイント	地方公共団体、森林管理局・署等(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習(労働安全衛生法施行令第20条第12号)」修了者相当。)	12	10/24 ~ 10/28	林業機械化センター
48	集材架線	集材架線(エンドレスタイラー式)の架設・集材・撤去作業 ワイヤロープの取扱い、集材架線の設計 機械集材装置の運転の業務に係る安全衛生特別教育	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	15	5/17 ~ 5/27	林業機械化センター
49	林業機械体験	高性能林業機械及びチェーンソーの体験学習 林野行政の役割と林業技術者への期待	大学生(林業関係学会会員)等	20	8/8 ~ 8/10	林業機械化センター
50	木材産業・木材利用(基礎知識・木質バイオマス利用)	木材産業・木材利用・木質バイオマスの多様な利用の現状と課題 木材の加工・流通、木造建築・住宅資材の基礎知識	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベル)等	35	12/5 ~ 12/9	

番号	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期	備考
51	木材産業・木材利用 (実践・輸出戦略)	木材産業・木材利用の現状と課題、木材の加工・流通住宅資材、技術開発、大規模木造建築、木材利用推進 木材輸出を巡る最近の情勢、輸出促進の戦略	地方公共団体、森林管理局・署(初任レベルを除く)、森林総合監理士等	30	1/30 ~ 2/3	
52	木材産業・木材利用 (先進事例学習)	木材の加工・流通に関する動向 木材のカスケード利用 木材市場、CLT工場、バイオマス発電施設	地方公共団体、森林管理局・署、森林総合監理士等	28	9/12 ~ 9/16	
53	公共建築物等木材利用促進	建築基準法の解説・木造技術の最近の動き 中大規模木造の木質系材料の知識、構造設計の基礎	地方公共団体等で公共建築物等の構造設計・発注等に係る者	30	1/16 ~ 1/20	
54	市町村林務担当者(基礎)	市町村担当者に必要な森林・林業の基礎知識、施策の概要 森林・林業の構想としての市町村森林整備計画の意義	市町村(初任レベル)	30	5/16 ~ 5/20	
55	市町村林務担当者(実務)	林地台帳制度、森林境界明確化 施策の集約化、森林経営計画の策定	市町村(初任レベルを除く)等	47	10/11 ~ 10/14	
56	市町村林務担当者 (地域林政アドバイザー)	市町村に係る森林・林業施策、森林計画制度、森林法令 森林経営、森林整備、森林情報の活用、アドバイザーの事例紹介	市町村林務行政のアドバイザーになり得る者	54	5/24 ~ 5/27	
57	森林経営管理制度の実務 1	森林経営管理法の概要、森林経営管理制度に係る市町村の事務 市町村が主体となった森林の経営管理の集積・集約事例	市町村等(地域林政アドバイザー等や都道府県職員を含む)	47	7/19 ~ 7/21	オンラインで実施予定
58	森林経営管理制度の実務 2	森林経営管理法の概要、森林経営管理制度に係る市町村の事務 市町村が主体となった森林の経営管理の集積・集約事例	市町村等(地域林政アドバイザー等や都道府県職員を含む)	47	10/31 ~ 11/2	
59	総合職新採用	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、現場実務の技術	令和4年度国家公務員総合職採用職員	17	4/18 ~ 4/22	
60	一般職(大卒程度)新採用 1	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、業務遂行に必要な能力	令和4年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員	45	7/11 ~ 7/13	
61	一般職(大卒程度)新採用 2	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、業務遂行に必要な能力	令和4年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員	45	7/13 ~ 7/15	
62	一般職(高卒者)新採用	心構え・規範、森林・林業・木材産業の現状、業務遂行に必要な能力	令和4年度国家公務員一般職(高卒者)採用職員	40	7/20 ~ 7/22	
63	研修企画運営実務 (先進事例学習)	林業大学校等の企画運営 技術者育成の教育企画運営手法 学生募集・就職等学生指導実務	地方公共団体、林野庁・森林管理局・署の研修実務・人材育成担当、林業大学校・林業高校等	30	10/25 ~ 10/28	
64	持続可能な森林経営のための政策 立案能力の強化	持続可能な森林経営の概念、森林資源モニタリング手法 森林計画の立案手法、行動計画書に基づいた提案書の作成と評価	海外の中央政府・地方政府の森林経営・保全担当行政官	12	3/1 ~ 3/14	
65	スマート林業普及教職員等 育成	森林・林業・木材産業の現状、スマート林業(林業イノベーション)概論 ICT等活用した先進的技術 各地域における取組について意見交換	林業高校及び林業大学校の教職員 都道府県職員(林業普及指導員)	30	8/2 ~ 8/3	オンラインで実施予定
66	署長	国有林野及び地域の森林の管理経営 内部組織の管理・外部対応能力の向上	森林管理署長等に初めて任用された者	20	4/26 ~ 4/28	オンラインで実施予定
67	行政能力向上(前期)	森林・林業・木材産業施策の動向、国有林の役割 コミュニケーション、プレゼンテーション、企画力等の演習	林野庁、森林管理局・署等(計画的に人事配置された者)	21	5/16 ~ 5/20	
68	行政能力向上(後期)	森林・林業・木材産業施策の動向等、業務成果発表 ファシリテーション、プレゼンテーション等の演習	林野庁、森林管理局・署等 (平成30年度、令和元年度及び令和2年度行政能力向上(前期)研修修了者)	34	2/13 ~ 2/17	
69	発注者綱紀保持	入札制度、談合、経済法等、リスク管理とコンプライアンス 他省庁や地方公共団体における先進的取組事例研究	森林管理局・署等の契約発注担当	28	1/25 ~ 1/27	
70	健康安全管理	健康安全管理体制の強化 健康安全指導能力の向上	森林管理局の安全衛生係長、局・署等の健康・安全衛生管理担当、健康・安全管理の実務的指導担当(担当経験が概ね2年以下)等	21	5/11 ~ 5/13	オンラインで実施予定
71	民国連携推進	民有林施業・木材産業施策の概要、民国連携の取組 生物多様性保全に配慮した管理経営、合意形成の技術	森林管理署等	21	2/6 ~ 2/10	
72	木材安定供給(生産・販売)	政策としての生産・販売事業、木材の加工・流通と販売 国有林材における安定供給等の取組	森林管理局・署の収穫・生産・販売担当(担当経験が概ね3年以下)等	21	11/28 ~ 12/2	
73	情報処理 (森林情報の取得・利活用)	ドローンの高度な利用、森林GISの高度な利用 森林情報の効果的な利活用	森林管理局・署職員	21	1/17 ~ 1/19 2/20 ~ 2/21	講義(オンラインで実施予定) 実習
74	国有林野管理等の実務	国有林野管理・処分業務の概要及び実務 国有林野の鑑定・利活用業務の実務等	森林管理局・署(局鑑定官、署財産管理、計画処分、貸付担当)等	21	11/28 ~ 12/2	
75	治山(ICT活用)	近年の災害発生状況(流木被害、火山噴火等)と対策 最新の調査手法、調査結果を活用した治山事業計画策定	森林管理局・署(治山(基礎)研修修了者)等	21	5/9 ~ 5/13	
76	通信研修(国有林野管理等)	国有財産制度、国有林野管理、分収林制度に関する基礎知識	森林管理局・署等	40	6/1 ~ 2/28	
77	通信研修(治山・林道)	治山・林道に関する基礎知識	森林管理局・署等	50	6/1 ~ 2/28	

※研修の詳細は森林技術総合研修所WEBサイトに掲載しています。<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyu.html>



# オンラインで実施した研修を振り返って

技術研修課長 中熊 靖

令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大は収まりを見せず、集合での実施を予定していた研修についても、かなりの部分がオンラインによる実施を余儀なくされました。

単純に研修効果ということであれば、明らかに集合研修の方が勝っているでしょうが、一方で、オンライン研修を多数実施することで、オンラインにはオンラインなりの良さやメリットがあることも実感されたところです。

今回は、コロナ禍において当研修所がどのようにオンライン研修に取り組んだか等について紹介させていただきます。

## ○使用したソフトウェアについて

本研修所で実施する研修では、主にZoomを使用しました。これは大学教員等の外部講師が使い慣れている場合が多く、研修を円滑に実施するために最適と判断したためです。

基本的な機能は、他のソフトウェア（Webex、Teams等）と大きな違いはありませんが、広く使われているものだけあって、操作方法の分かり易さや自由度の高さは優れており、とりわけ研修生がグループに分かれて討議を行う場合に力を発揮したと感じました。

自治体によっては、公用端末でのZoomの使用を制限している場合もあったことから、一部の研修生にはご不便をおかけしましたが、ご容赦いただければ幸いです。

## ○事前準備について

オンライン研修の実施にあたっては、回線の混雑状況等の確認も兼ねた事前テストが重要となります。これを怠ると予定していたカリキュラム自体が成り立たなくなるため、事前テストにおいて問題点を洗い出し、本番までに解決しておくことが必要です。

本研修所で実施する研修においては、平均3日程度かけて講師・研修生を対象とした事前テストを行っており、（通常の集合研修より準備のための時間を要しているものの）このような努力が円滑な研修実施に繋がったと考えております。

## ○カリキュラムの進行について

オンライン研修では講師・スタッフが全て一同に介しているとは限らないことから、集合研修と異なり臨機応変な対応が困難な場合があります。そのため、進行用の詳細なシナリオ作成は必須で、本研修所で実施する研修においても、担当者は必ずシナリオを作成し、スタッフ間で共有するようにしていました。

オンラインでの研修やセミナーを企画している皆様におかれましては、是非ご留意下さい。

## ○実施体制について

司会進行役1名、技術サポート2名（講義進行への対応1名、トラブル対応1名）の3名を最低限としておりましたが、実際には通信状況のモニターやトラブル対応への応援が必要となるケースも多く、（研修生の人数次第ではありませんが）4～5名で対応することがほとんどでした。

通常の集合研修であれば、スタッフ数名で済むところで、マンパワーの面でもやや負担が大きかったというのが実感です。

## ○研修生同士の交流について

研修生同士の交流・情報交換が困難であることは、オンライン研修最大のデメリットと言えます。本研修所でも、問題の所在は認識していたものの、これまで有効な手立てを講じることができておりませんでした。令和3年度最後となる研修で、初の試みとして時間外のオンライン懇親会を開催しました。

Zoomのミーティングルームを自由に使用してもらうスタイル（いわゆるZoom飲み）での実施でしたが、評判も上々だったことから、今後も同様の試みを続けていきたいと考えております。

以上、当研修所で実施した取組の一部を紹介させていただきましたが、いかがだったでしょうか。当研修所では、今後も様々な取組を進め、オンライン研修をより充実したものにしていきたいと考えております。研修生の皆様には、今後も研修への積極的なご参加をお願いするとともに、より良い研修実施のためのご意見・ご提案等をいただければと存じます。



教室での講義の様子（中央は講師、左右は研修所スタッフ）



オンラインによる講義状況



別室でオンライン研修の状況をチェックしている様子

## 研修紹介

# 木材産業・木材利用 (基礎知識・木質バイオマス) 研修(オンライン)

- 教務指導官 佐宗 等征
- 研修企画官 田村 忠浩

本研修は、木材産業・木材利用関係業務を初めて担当する職員を対象に、木材の加工・流通、木造建築等に関する基礎及び木質バイオマスへの多様な利用についての知識を習得し、地域木材産業に係る課題等に対応し、地域の木材利用を推進できる者を育成することを目的とした研修です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を鑑み、オンライン形式による4日間の研修として実施しました。

製材工場やバイオマス利用の取組状況等の現地見学ができなかったことや、研修生同士での交流ができなかったことは残念だったものの、木材の特性や乾燥、木造住宅の建築から木質バイオマス利用まで多岐に渡る講義に対して、研修生からは「充実した講義を受けることができた」「木材の基礎について大変分かりやすく有意義な研修だった」などのアンケート回答をいただくことができました。

今後も、本研修受講者が木材利用促進に大きく貢献で

## 研修データ

実施時期	12月6～9日(4日間)
研修生	36名 (都道府県等職員、林野庁職員)

きるよう充実した研修を行っていきたいと考えております。

### 【研修科目】

- 木材産業・木材利用の現状と課題
- 木材の加工・流通の基礎知識
- 木造建築・住宅資材の基礎知識
- 木質バイオマスの多様な利用の現状と課題



オンライン配信している様子

## 研修紹介

# 情報処理(森林情報の 取得・利活用)研修

- 教務指導官 新井田 和彦
- 実施係長 中西 誠

森林技術総合研修所では、事務・業務の効率的な実施を推進するため、無人航空機・森林GISに係る高度な活用・運用管理についての知識及び技術を習得させ、森林情報を効果的に利活用できる技術者の育成を目的として、森林管理局・署職員に対する情報処理(森林情報の取得・利活用)研修を実施しました。

令和3年度の研修では、ドローンの高度な利用、森林GISの高度な利用、森林情報の効果的な利活用、情報セキュリティについての講義・演習、実習等を実施しました。なかでも3つのグループに分かれての課題解決に向けた討議では、「他の局や署の方と森林情報の考えや、それぞれの職場の状況を話し合えて良かった」「CS立体図の作成・活用等いま出来ることから取り組んでいきたい」との意見が得られました。



無人航空機についての講義

## 研修データ

実施時期	1月17～21日(5日間)
研修生	9名(林野庁職員)

また、国土交通省九州地方整備局の先進事例と国土防災技術株式会社による見学・演習を通じ、「安全や法令に携わるドローンのスペシャリストから講義を頂いた貴重な時間だった」「事前の現地確認準備の重要性を学んだ」「オルソ化ソフトウェアによる撮影データの解析を学び、復習等を行い身につけていきたい」との意見もあったところです。

これらの講義により新しい知識を得るとともに、研修生同士でのコミュニケーションにより、互いの知見を共有することができました。特に、森林調査における航空レーザデータの活用において、「CS立体図の作成方法や活用事例について学んだことは、大変便利なツールであると感じたので、今後作業道作設などの業務で活用していきたい」との意見は、事務・業務の効率的な実施を図るうえで、高度な活用・運用管理についての知識を得ることができたと考えます。

今後も、無人航空機・森林GISを活用した事務・業務について、林野庁職員の理解を深めるための研修を行っていくこととしています。

### 【研修科目】

- ドローンの高度な利用
- 森林GISの高度な利用
- 森林情報の効果的な利活用

## 研修紹介

# 市町村林務担当者 (実務)研修(オンライン)

- 教務指導官 松本 信二
- 研修企画官 牧野 みほ

近年、森林・林業においては、森林環境税・譲与税の創設や森林経営管理制度の創設など、市町村に様々な役割を求める見直しが進んでいます。本研修は、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成するため、ある程度実務経験を積んだ市町村の林務担当職員等を対象とした研修です。今年度は、コロナの影響により、オンライン研修として3日間の日程で実施しました。

研修初日は、最新のトピックを交えながら、森林・林業施策における市町村の役割や所有者不明森林等の対策として期待される森林経営管理制度や実際の地域の取り組みとして岡山県西粟倉村の取り組みについて学びました。

研修生からは、地域活性化の取り組みに対して感嘆の声が聞かれました。

研修2日目は、市町村の森林・林業施策の基本となる市町村森林整備計画と森林経営計画について、計画の内容や、伐採届等の具体的な業務の内容等について学びました。

研修最終日は、市町村において森林・林業施策を進める上で密接に関係してくる保安林や林地開発許可制度、

## 研修紹介

# 民国連携推進研修

- 教務指導官 藪 弘道
- 研修企画官 黒岩 知博

本研修は、民・国連携して森林の流域管理を適切に推進するため、民有林施策及び流域の特性を踏まえた民・国連携による森林整備の方策やその施業方法、木材供給の低コスト化や新たな需給拡大、合意形成等に必要な知識及び技術を習得させ、流域が一体となった具体的な活動や民有林行政の支援を行える者を育成することを目的として実施しました。

本研修では、森林・林業行政における国有林の役割、国有林における民国連携の取組と今後の方向性、民国連携した木材安定供給の取組、山村振興に向けた取組についてなど林野庁講師による講義のほか、秋田県職員（森林総合監理士）より、森林総合監理士の取組事例と国有林へ求めるものの講義もありました。また、課題解決及び外部への対応・調整の方法とその技術、地域の要請等の把握手法の演習も行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響から研修生4名となりましたが、研修生からは「外部対応が多い業務なので大変参考になった」「民有林担当者の考え方や取組を聞いて参考になった」「人の話を聴く力や質問する力が重要とわかった」などの意見がありました。

また、今後に向けて「今後の業務に生かせる研修でした」「今回の研修で得たものを1つでも業務に生かしていきます」などの意見がありました。

今回の研修を受講した研修生が、それぞれの地域において研修で学んだことを活かし、民国連携した森林の流域管理が推進されることを期待しているところです。

## 研修データ

実施時期	1月18～20日(3日間)
研修生	45名(市町村職員)

森林境界明確化に係る取り組みや造林、林道の補助事業等について学びました。

今回、北は北海道から南は九州まで全国から研修生45名参加しました。研修生からは、専門的な知識もない中で少ない人数で業務を回していかなければならないこと等の苦労話も聞かれる一方、全国の担当者がどのようなことで悩んでいるのか共有することができたなどの感想もありました。

今回の研修が、今後の各地域の森林行政の推進に少しでも貢献することを期待しているところです。

### 【研修科目】

- 林地台帳制度
- 森林境界明確化
- 施業の集約化
- 森林経営計画の策定 など



パソコン画面に映るオンライン研修中の様子

## 研修データ

実施時期	1月24～28日(5日間)
研修生	4名(林野庁職員)

### 【研修科目】

- 国有林における民国連携の取組
- 民有林施策等の概要
- 木材産業施策の課題と今後の展開方向
- 合意形成の技術
- 地域の要請等の把握手法



課題解決及び外部への対応・調整の方法とその技術

## 研修紹介

# 木材産業・木材利用 (実践・輸出戦略) 研修 (オンライン)

- 教務指導官 坂之上 勤太
- 研修企画官 田村 忠浩

本研修は、木材産業の振興と木材利用の実需拡大を図るため、木材の加工・流通、木造公共建築物及び木材輸出等に関する最新の動向、知識及び技術を習得させ、地域の木材産業等に係る課題を解決できる者を育成することを目的として実施しました。

年度当初の研修計画では本研修は5日間の集合研修として実施することとしていましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため3日間のWEB配信による研修に変更しました。

本研修では、木材産業・木材利用に関して「現状や課題、取組状況」「JAS規格・制度」「木造建築物の法令」「採材方法と丸太の流通」など、輸出に関して「木材輸出のための事業者へのサポート」「日本産スギフェンス材の木材輸出の現状と課題」などの講義を行いました。

研修生からは「現地見学や他県との情報交換が出来なかったことが残念」という感想があった一方で、「業務に大変参考になった」という声が寄せられました。

来年度の研修については、コロナ禍が収まることを期待して大型製材工場などの現地見学を取り入れたカリキュラムにしたいと考えています。

最後に、研修生の皆様には今回の研修の成果を基に、それぞれの地域が抱える木材産業の課題を解決するためにご活躍していただくことを期待します。

## 研修紹介

# 山村振興・地方創生 研修 (オンライン)

- 教務指導官 山田 徹
- 研修企画官 横山 敬吾

本研修は、山村地域において地域資源を活用した都市住民や企業との連携の在り方、山村振興に向けた活動促進策等に関する知識を学び、地域活性化の方策について企画・立案できる者の育成を目的とした研修です。コロナ渦の中、オンライン研修として実施し、全国から11名の県・市・林野庁職員が受講しました。

主な講義の内容を紹介します。

「山村と都市や企業等の連携」では、講師より里山資本主義や現代社会の問題点から地域内における内部循環経済等についてお話をいただきました。研修生からは「地域で生きることについて深く考えさせられた」などの感想がありました。

「企画立案学習」では、「地域で事業をつくる」ことについて、講師からは山村地域において事業をつくる時に必要なことを講師が直接関わってきた地域における事業の取組事例を中心にお話をいただき、その後、個人ワーク形式でそれぞれの地域においてどのように研修生が取り組んでいくかなどについて、リモートにて発表を行いました。研修生からは「地域で事業を行う上で重要なことを学ぶことができた」「他の研修生の発表を聞いて参考になった」などの感想があり、今後、実践していく上で参考にな

## 研修データ

実施時期 1月25～27日(3日間)

研修生 14名  
(都道府県職員、林野庁職員)

### 【研修科目】

- 木材産業の現状と課題
- 木材の加工・流通
- 住宅資材、技術開発
- 大規模木造建築、木材利用推進
- 木材輸出を巡る最近の情勢、輸出促進の戦略



研修生が受講しているZoom画面

## 研修データ

実施時期 2月8～10日(3日間)

研修生 11名  
(都道府県職員、林野庁職員)

る内容の講義だったと思います。

「地域資源を活用した地域づくり」では、地域の取組事例の一つとして「西粟倉村(にしあわくらそん)の取組事例」について、講師から現在取り組まれている「百年の森林構想事業」を主にお話いただきました。研修生からは「森林という資産を最大限に生かすという取組が参考になった」「西粟倉村でのローカルベンチャーの職種の幅の広さに驚いた」などの感想がありました。

今回、オンラインでの研修でしたが、研修生がそれぞれの地域において事業を取り組む際の何らかのきっかけになればと思います。来年度は対面形式にてワークショップなども取り入れて研修生同士が深く意見交換ができるような場も設定し、より地域活性化に結びつくような研修内容にしていきたいと考えています。

### 【研修科目】

- 山村と都市や企業等の連携
- 地域資源を活用した地域づくり
- 企画立案学習

## 林業機械化センター ～展示棟(親機館)紹介～

林野庁森林技術総合研修所林業機械化センターは、1957年（昭和32年）、群馬県の沼田営林署（現在の利根沼田森林管理署）に「機械化室」が設置されたこと始于ります。

現在の主要な施設は、1995年（平成7年）から1999年（平成11年）に、寄宿舎棟（愛機荘）、事務所棟、更に展示棟（親機館）、機械格納庫と順次建て替えが進められました。これらのいずれの建物も、国産材のスギ、カラマツなどの大断面集成材を軸組材として建築され、構造的にも居住性の面においても優れたモデル的な木造建築となっております。

この中で展示棟（親機館）は、自然光が溢れる明るい空間となるよう設計されており、天井も見学者の意識から消えるほど高く、巨大な林業機械の展示に適した構造となっております。施設の内外には、かつて森林鉄道として活躍した、1921年（大正10年）頃に日本に導入された蒸気機関車（ボールドウィン社製（アメリカ））、1956年（昭和31年）に配備されたディーゼル機関車（協三工業製）、ガソリン機関車（ホイットカム社製（アメリカ））の3台

の機関車を始め、昭和初頭に日本に導入された初期型のチェーンソーや、集材機、運材機械のほか、林業の安全性や生産性向上のために開発された試作機などを展示しており、日本の林業を支えてきた林業機械の発展の歴史をご覧いただけます。

場所：群馬県沼田市利根町根利1445番地  
電話：0278-54-8332

開館は、平日（月）～（金）の9時～16時となっております。



展示棟全景・森林鉄道車両群

### 日本におけるチェーンソー初期型の紹介



各種チェーンソーの紹介



集材機・開発機械等

## 人事異動

### ■定年退職<令和4年3月31日付け>

入澤 和彦（林業機械化センター所長）

### ■退職(出向)<令和4年3月31日付け>

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所総括審議役 大政 康史（所長）

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所総務部管理課長 横山 敬吾（技術研修課研修企画官）

### ■転出<令和4年4月1日付け>

農林水産省輸出・国際局国際経済課（国際連合班国際連合第1係）友 一平（林業機械化センター機械化研修係）

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室室長補佐 佐宗 等征（教務指導官）

関東森林管理局上越森林管理署長 田中 直哉（技術研修課長）

関東森林管理局森林整備部上席自然再生指導官（高尾森林ふれあい推進センター所長） 久保 武典（教務指導官）

関東森林管理局吾妻森林管理署 土屋 佑平（林業機械化センター機械化研修係）

関東森林管理局総務企画部総務課業務推進官（林野庁国有林野部業務課付け）松本 織江（総務課付け）

九州森林管理局森林整備部企画官（長期安定供給担当） 坂之上 勤太（教務指導官）

### ■転入<令和4年4月1日付け>

所長 佐伯 知広（林野庁森林整備部治山課長）

教務指導官 岩田 清人（環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室室長補佐）

教務指導官（林業機械化センター付け） 恒松 衛（林野庁林政部経営課課長補佐（経営育成企画班担当））

教務指導官 内藤 晴敬（四国森林管理局森林整備部資源活用課長）

総務課庶務係長 中島 千嘉（四国森林管理局愛媛森林管理署森林整備官（森林育成・森林ふれあい担当））

技術研修課行政専門員（再任用） 早川 雄司（林野庁林政部林政課監査官）

経営研修課長 和泉 慎太郎（林野庁森林整備部森林利用課付け）

経営研修課研修企画官 後藤 美佐緒（林野庁国有林野部管理課安全衛生班保障係長）

林業機械化センター所長 池田 修（関東森林管理局森林整備部上席自然再生指導官（高尾森林ふれあい推進センター所長））

林業機械化センター機械化研修係長 畠山 弘一（中部森林管理局東信森林管理署主任森林整備官（資源活用担当））

林業機械化センター機械化研修係 櫻木 隆満（関東森林管理局吾妻森林管理署）

### ■内部異動<令和4年4月1日付け>

技術研修課長 中熊 靖（経営研修課長）

技術研修課研修企画官 黒岩 知博（経営研修課研修企画官）



FTI News | No. 96

林野庁 森林技術総合研修所

〒193-8570 東京都八王子市廿里町(とどりまち)1833-94

TEL | 042-661-7121(総務課) / -3560(教務指導官室)

-3565(技術研修課) / -3567(経営研修課)

URL | [https://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuu\\_zyo.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuu_zyo.html)

林業機械化センター

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445

TEL | 0278-54-8332

URL | [https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai\\_ka\\_senta.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html)